

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：宇宙への扉 - フィクション・コンテンツに見る天文現象 - ILAS Seminar :The Door into the Space -Astronomical Phenomena in Fictions-			担当者所属 職名・氏名	理学研究科 准教授 野上 大作 理学研究科 教授 前田 啓一		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)
開講年度・開講期	2025・前期	受講定員 (1回生定員)	12(12)人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	木5	教室	理学研究科4号館5階会議室 (504)(北部構内)			使用言語	日本語
キーワード	天文学 / 宇宙 / 小説 / 映画 / アニメ						
<b>【授業の概要・目的】</b>							
<p>小説・映画・アニメ等の創作物を題材に、作品中における天文現象を取り上げて、解説・議論を行う。各回、発表者が、天文現象や宇宙に関連した事柄が物語の鍵を握る創作物を選び、その天文現象について自身で調べた内容を、物語におけるその役割とともに解説する。それに関して、教員から専門的な説明や、他の履修者を含めた議論を行う。</p> <p>本ILASセミナーでは、創作物という身近な題材をもとに、天文学の基礎的な知識を習得するとともに、科学リテラシーの見方を習得することを目的とする。</p>							
<b>【到達目標】</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・天文学・天文現象についての基礎知識を獲得する。</li> <li>・文学作品等における天文現象のとらえられ方やその変遷について学ぶことで、文化や一般社会における天文学（あるいは広い意味で科学）の役割を考察する能力を獲得する。</li> <li>・創作物をはじめとした一般社会における科学的事柄の記述の真偽や正確さを判断するための、科学リテラシーの見方を習得する。</li> <li>・自分で題材を選択し掘り下げて調べる能力、そこで得た知識を他人に理解してもらえるよう説明するスキルを磨き、議論を通して理解を深める能力を養う。</li> </ul>							
<b>【授業計画と内容】</b>							
<p>第1回 イン트로ダクション 本ILASセミナーの目的や進め方についての解説を行ない、次回以降の発表者を決める。</p> <p>第2回～13回 各参加者による発表。 題材は、天文現象を取り扱っているものであれば、小説・映画・アニメ等、作品の形式は問わない。題材となる作品は各発表者が自分で探し、選択する。 最初の1時間程度、発表者が選択した題材に関してあらすじを紹介し、その中で天文現象がどのように取り扱われているかを解説する。さらに、その天文現象に関して、自分で調べた付帯的な事項について解説する。残りの30分程度はそれについて全員で議論を行なう。</p> <p>第14回 まとめ 第13回までに学んだことについて総括の議論を行なう。</p> <p>第15回 フィードバック</p>							
<b>【履修要件】</b>							
特になし							
ILASセミナー：宇宙への扉・フィクション・コンテンツに見る天文現象・(2)へ続く							

**[成績評価の方法・観点]**

自分の担当分の発表の内容（50点）と各回での議論への参加度合い（50点）により評価する。

**[教科書]**

使用しない

題材は各自で好みのものを選んでよい。それをもとにして、簡単なものでよいので、あらすじや天文現象の取り扱われ方、付帯事項などを説明するための資料を用意すること。形式は自由とし、ノートに手書きしたものの写真でも、ワードやパワーポイントなどでまとめたものでも、その他の形式でも構わない。

**[参考書等]**

（参考書）

特になし。

**[授業外学修（予習・復習）等]**

各回のセミナー後に、興味を持ったことをインターネットや本で自主的に詳しく調べることを期待する。

**[その他（オフィスアワー等）]**

履修者には質問や議論を積極的に行なうことを期待する。特にオフィスアワーは設けないが、メールや教員研究室を訪問しての質問・議論は歓迎する。訪問する際は事前に必ずメールで連絡をすること。